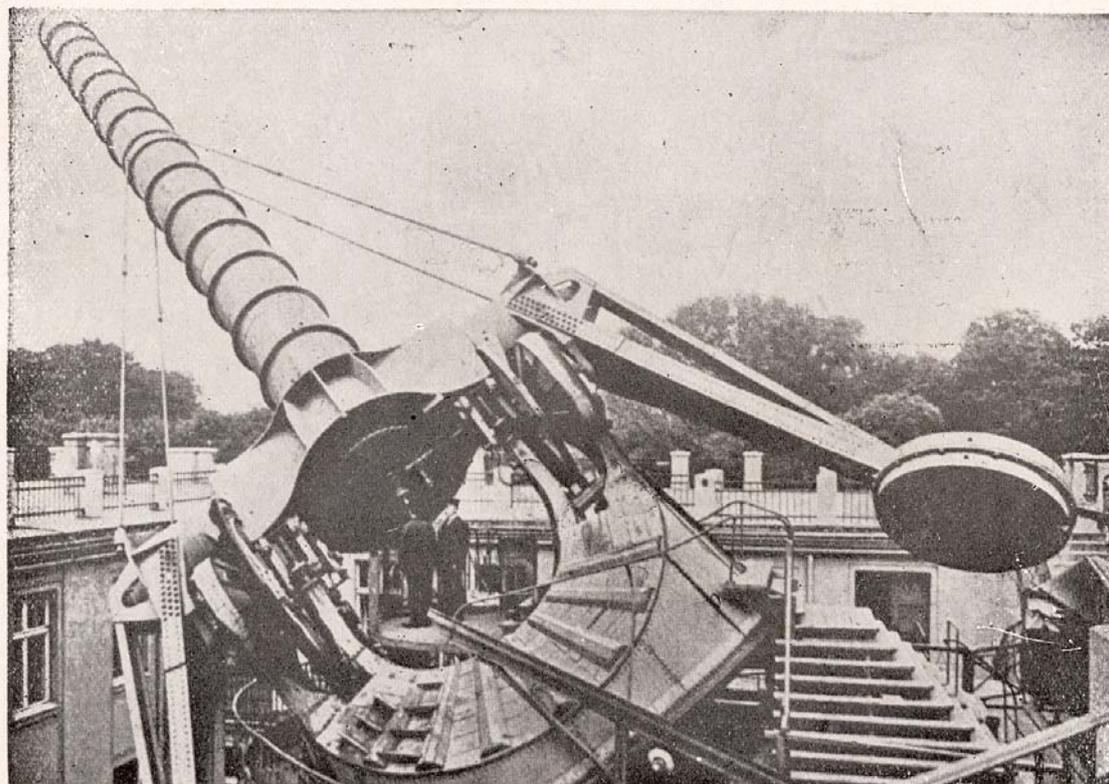


国立天文台・天文情報センター・アーカイブ室 中桐正夫

**\* 萬有科學大系 (昭和6年9月1日発行) にも載っていた超長巨大望遠鏡**

2009年12月11、12日に国立天文台天文台大セミナー室で開催された「国立天文台の歴史的アーカイブスに関するシンポジウム」で、天文研究家で愛媛県在住の野上長俊氏の講演に出てきた Archenhold 天文台の巨大天体望遠鏡が筆者の手元にある「萬有科學大系」普及版正編第一巻 (昭和6年 (1931年) 9月1日発行) に掲載されているのを発見した (写真1)。この望遠鏡の記事は、渋谷星の会の小川誠治氏が提供してくれた「科學畫報第7巻第3号」大正15年9月1日発行9月号 (天界驚異号) に「宛然長距離砲」として掲載されている (写真2)。萬有科學大系には写真は掲載されているが脚注に「ドイツのベルリンにあるトレプトー天文台の70cm野天望遠鏡、専ら民衆教化のために1896年設立されたもので、大建築物の屋上には1909年に設備した長さ20mのこの長大な望遠鏡を据えている」とあるのみである。

第 二 百 八 十 一 号 圖



鏡遠望天野チンセ十七の臺文天ートプレトるあにンリルベのツイド

→メー十二さ長たし備設に年九〇九一はに上屋の物築建大 でのもたれさ立設年六九八一にめたの化教衆民ら専  
るるてえ据を鏡遠望な大長の此のルト

写真1 萬有科學大系に掲載された超巨大望遠鏡の写真

下の写真が科学画報大正 15 年 9 月号に掲載されていたものである。



写真2 「科学畫報第7卷第3号」の「宛然長距離砲」

「科學畫報第 7 卷第 3 号」の「宛然長距離砲」の記事には「これはまた素晴らしい月を撃つ大砲だと、知らない人はビックリするでしょうが、実はドイツのトレプトウエル天文台に 30 年も前から備え付けてある世界最長の大屈折望遠鏡です。ハッキリしたことは不明ですがともかく 6000 倍に星を拡大して見る事が出来ると號しています。筒の長さが 21m というのですから丁度 10 間あるわけです。右下の小さい写真はこの大望遠鏡の台座のところで、恐ろしい重りが双方について、つり合いをとっています。一たい昔は恐ろしく長い筒をつかったものですが、光学工業の発達にともなって、近年では何もそんな長い筒を要さなくなりました。筒が長いと、揺れたり動いたり実に取り扱い上厄介至極なものです」と説明されている。

アーカイブスシンポジウムの集録で野上氏は序文の中に次のように書いている。「ドイツ Berlin の東南 Treptow 地区（旧東ドイツ）にある Archenhold 天文台は、1896 年に Freidrich Simon Archenhold(1861-1939)によって 1896 年に設立され、焦点距離 21m の巨大な反射望遠鏡（通称：Himmelskanone—天空の巨砲—）で知られている。私設の一天文台として誕生してから 2 度の世界大戦を経て激動の歴史に耐え、公共天文台として 100 年以上を経た今日までの足跡を一般市民への天文学の啓蒙活動とのかかわりとともに概観する」

野上氏はこの望遠鏡を反射望遠鏡と書かれているが屈折望遠鏡の間違いであろう。写真 3 は野上氏がシンポジウムで見せたものである。



写真 3 野上氏の講演の超巨大望遠鏡写真

この超巨大望遠鏡は、建設当時は建物の屋上の野外にあったようであるが、野上氏の講演ではスライディンググループに納まるようになっていたとのことであった。

世の中には、なんとも驚嘆するようなものが存在しているものである。